

消費者市民社会の一員として  
持続可能な社会をめざした  
**意思決定能力の育成**

第2弾

# エシカル消費で食文化を学ぶ

— 食文化から見つめ直そう 私たちの食生活 —

食文化

エシカル消費

意思決定

## 1 エシカル消費と食文化を学び、行動変容をめざす

### 食文化



和食・日本人の伝統的な食文化がユネスコ無形文化遺産に登録されました（平成25年12月4日）。和食文化を継承するには、地域の食文化や農産物に対する次世代の想いを育むことが大切です。想いを育む手立て <つなぐ> を紹介します。

- <つなぐ1> 食の歴史（開港と食文化）
- <つなぐ2> 農業に深く関わる人（JAの方からのメッセージ動画）
- <つなぐ3> 地産地消食材（地産地消のとん汁の調理実習・試食）



地産地消やフードマイレージについて、体験的・実践的な活動を通して理解を深め、地域の食文化を守り育てていくために自分に何ができるかについて考えていきます。

### エシカル消費



エシカルとは、人・社会や地球のことを考えた『倫理的に正しい』消費行動やライフスタイルを指します<sup>(1)</sup>。

エシカル消費の取組は「**地域への配慮**」「**環境への配慮**」「**社会への配慮**」の視点から分類することができます<sup>(2)</sup>。

食文化を伝承することや、地元産の食材を使用する地産地消の意義を理解し、エシカル消費を踏まえて、今後の食生活に生かしていこうとすることが大切だと考えます。

出典 (1) (株) テルフィス、(2) 西村隆男、消費者教育フェスタin大分

『倫理的消費』調査研究会

消費者庁において、倫理的消費の内容やその必要性等について検討し、国民の理解を広め、日常生活での浸透を深めるためにどのような取組が必要なのかについて調査研究を行う『「倫理的消費」調査研究会』が2015年5月より開催されています。

### 意思決定

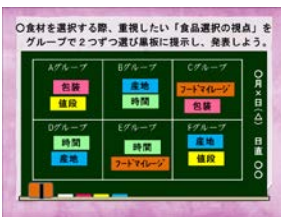


行動変容を目標とする消費者教育では、ライフスタイルの形成にかかわる意思決定プロセスを見とることが大切です。意思決定プロセスを見とることで、今までの判断基準だけでなく、いろいろな視点から考え、判断する力が身に付くと考えます。

この教材では、「家族で食べるとん汁の準備をまかされた」という実生活に即した場面での意思決定の疑似体験が可能です。



## 2 中学生がエシカル消費で食文化を学ぶ



### (1) 知っているだけでなく「自分に何ができるか」を考える

中学生には、単に地元産の食材や食文化について知っているだけでなく、消費者市民として、地域の食文化を守り育てていくために「自分に何ができるか」を生徒一人ひとりが主体的に考え、実践できる力を身に付けさせたいと考えます。地域の食文化や農産物について知り、生まれ育った地域に誇りをもち、行動できる力を育むことが大切です。

### (2) エシカル消費と食文化

生徒には、『食品選択の視点』として「値段」「産地」「時間」「包装」「フードマイレージ」の5つの視点を提示します。「とん汁の準備を任された」日は、どの視点を重視して食品を選択するか、各自の調査（収集した食材の情報）を踏まえ、各自が「とりあえず決定」\*します。その後、グループごとに重視する『食品選択の視点』を協議し（「決定の見直し」\*）、学級で共有します。共有した『食品選択の視点』を「**地域への配慮**」「**環境への配慮**」「**社会への配慮**」の3つのエシカル消費の視点につなげ、未来を展望した消費者市民としての判断基準を学んでいきます。



\*意思決定プロセス「目的・課題の設定」→「情報の収集・方法の検討」→「決定（とりあえず決定→決定の見直し→決定）」→「実行」→「評価・反省」

# 本教材で意思決定能力を育むために



## 言語活動

・各自の調査（収集した食材の情報）をもとに仲間へ「説明」します。また、聞いた説明に対して「質問」したり、「まとめる」ことをしたりする場面があります。考えを見直し、意思決定した理由を「論述」する等、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育みます。

説明

質問

まとめる

論述

## 学習方法

・意思決定プロセス\*の「決定の見直し」の段階で、グループでの話し合い、調理実習・試食を取り入れ、一人ひとりが学習のねらいを理解した上で主体的に課題に取り組みます。

・\*意思決定プロセス「目的・課題の設定」→「情報の収集・方法の検討」→「決定（とりあえず決定→決定の見直し→決定）」→「実行」→「評価・反省」

グループ学習

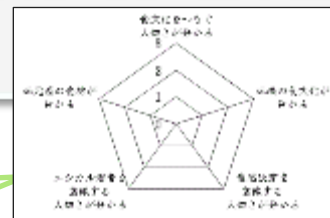
アクティブ・ラーニング

## 学習評価

・生徒は「意思決定」したら、理由を**思考の過程**を含めて論述します。  
・意思決定プロセスの「あらかじめ決定」→「決定の見直し」→「決定」における生徒の思考の深まりや、学習前・学習後を比較した生徒の思考の変容を見取ることで、目標に対する実現状況を把握できます。

パフォーマンス評価

生徒の思考の深まりや  
学習前後の変容が  
見取りやすいワークシート



## 教材

フードマイレージとは？

地元食材の料理のフード・マイレージの試算

市場流通  
国産食材  
地元食材

掲示物

ワークシート

ICT活用

プレゼンテーション

動画  
地元産食材

動画  
とん汁の作り方

動画  
地元産食材

JAの方からのメッセージ動画

### 学習前

(地域の食材を用いることの良さ)。  
・ とれたてが食べられる。

(季節の食材を用いることの良さ)。  
・ 味が良い。  
・ 季節感を味わうことができる。

ワークシートで  
自分の意識や  
行動の変容を  
振り返ることができます。

### 学習

### 学習後

(地域の食材を用いることの良さ)。  
・ 横法の農家を応援できる。  
・ 顔が見えるから安心できる。  
・ 直売所ではおいしい食べ方を教えてもらえる。  
・ とれたてだから新鮮でおいしい！  
・ 地球環境に良い(包装やCO2排出量など)。  
・ 横法の食文化を受け継いでいける。

(季節の食材を用いることの良さ)。  
・ 味が良い。 ・ 栄養価が高い。  
・ 生産量が多い。 ・ 季節感を味わうことができる。  
⇒ 「地域の食材」と「季節の食材」は密接につながっていて、「地域の食材」を取り入れることで、旬の良さを同時に味わうことができると感じた。

【ワークシートの問い】 地元産の食材・季節の食材を用いることの良さは何か。

【ワークシートの問い】 地域の食文化を守り育てていくために自分ができることは何か。

【リーダーチャート】 食文化をつなぐ大切さ、地域の食文化への理解、地元産の食材への理解、意思決定、エシカル消費「学習前」と「学習後」の意識や行動の変容をワークシートで比較できます。

# 教材セット内容

1 学習指導案(A4・8ページ)

2 教材

- ① 意思決定プロセス(A2・1枚)
- ② パフォーマンス課題(A2・1枚)
- ③ とん汁(写真)(A3・1枚)
- ④ 食品の種類(A3・2枚)
- ⑤ 食品選択の視点(A3・5枚)
- ⑥ フードマイレージのグラフ(A3・3枚)
- ⑦ ワークシート集(A4・8ページ)
  - ・ワークシートNo.1 地域の食文化を知ろう
  - ・ワークシートNo.2 食文化から見つめ直そう  
私たちの食生活
  - ・ワークシートNo.3 調理実習の計画  
～地産地消のとん汁を作ろう～
  - ・<資料1> 食品選択の視点
  - ・<資料2> エシカル消費
  - ・<資料3> 食品の種類

3 DVD-R

【Disc1】(動画)

- ① 地元産のたからもの(13:30)
  - チャプター1 食文化とは(1:50)
  - チャプター2 地産地消とは(6:00)
  - チャプター3 横浜の農業の歴史と発展(3:30)
  - チャプター4 農家の方の思い(1:50)
- ② とん汁の作り方(3:00)
- ③ 学習後に(1:30)

【Disc2】

- ④ プレゼンテーション(1～4時間目)
- ⑤ 学習指導案
- ⑥ ワークシート集
- ⑦ 黒板掲示物
- ⑧ カード「食品選択の視点」
- ⑨ 教師用資料

発行元 横浜市経済局 消費経済課(☎045-671-4140)

協力 青木 美穂 (横浜市教育委員会事務局 指導主事)  
萬谷 恵三子 (中田中学校 副校長)  
関野 かなえ (末吉中学校 教諭)  
池岡 有紀 (いずみ野中学校 教諭)  
杉本 直大 (旭中学校 教諭)  
館野 裕美 (下瀬谷中学校 教諭)  
塚田 梨絵 (鶴見中学校 教諭)  
武居 奏美 (市場中学校 教諭)  
堀内 かおる (横浜国立大学教育人間科学部 教授)



<お願い>

本教材を横浜市以外で活用される場合、1時間目「地域の食文化を知ろう」(ワークシートNo.1)を「開港に伴った食文化の歴史」として横浜の食文化を扱っていただき、その後、当該地域の食文化の学習を追加されることをお勧めいたします。

発行：平成28年3月31日